

建物概要報告書

ふくいへリテージ協議会

■建物と敷地

当建物は、明治時代より、歯科医院として親しまれてきました。武生のまちの中心部に位置し、明治36年(1903)の武生大火後、現在のかたちに整備されました。

周辺の町家と同様に、間口に対して奥行きが長い敷地に、庭を介して、各建物が立ち並びます。

- ①医院(洋館) 木造2階建(国登録文化財)
明治41年(1908)建築
- ②台所 木造平屋建
明治36年(1903)頃建築
- ③居宅 土蔵造2階建
明治36年(1903)頃建築(土蔵を移築、改修)
- ④門及び塀 コンクリート造
大正13年(1924)建築



配置(右が北)

■登録文化財の医院(洋館)について

- ・明治41年(1908)の建築で、2階建てで、外壁はモルタル洗い出し仕上げの洋館です。むくりをつけた大きな屋根、玄関や軒下の凝った意匠、鉄扉のついた縦長の窓が特徴的です。
- ・内部は、1階が歯科医院として洋室が並び、対して2階は松材を用い、松尽くしの意匠とした上質な和室が並びます。1階には「生松堂」と揮毫された扁額があり、松を好んだ当主の思いが読み取れます。前庭の高い七本松のブラインドも、好んで植えられたものだそうです。
- ・大工棟梁は地元の田倉藤太郎、左官は石動芳次郎と伝わり、当時の高い技術で造られたことがわかります。
- ・平成11年、「再現することが容易でないもの(登録文化財基準1)」と評価され、登録文化財に登録されました。



建築当時の写真

■その他の建物（住居部分、門及び塀）

- ・台所は住居への玄関を備え、広い台所と、奥に水回りが並びます。中庭側は、台所から居宅へと縁がまわり、雨戸代わりのガラス戸で明るく、さらにガラス戸を開け放つと、お庭と一体となって、とても開放的な空間です。
- ・居宅は、他所にあった土蔵を持ってきて住居に転用し、背面側を増築しています。外観は柱型と鉄扉で洋風に、内部は各部屋で天井の意匠を変えるなど、こちらも見どころのある建物です。
- ・敷地前面の門及び塀も左官の石動芳次郎によって大正 13 年につくられ、現在も洋館と一体となって医院の屋敷構えを伝えます。
- ・お庭も、前庭、中庭、そして裏庭と、敷地一体となって今に伝わります。

■建物の保存状況

①医院（洋館）

内部は、1階の一部の部屋（待合室）で床が腐朽しているものの、構造材は全体に健全とみられます。1階床レベルを計測したところ、全体に不陸は小さいものの、一部縁側で下がりがみられるなど、不陸の影響か壁にクラックのある箇所も確認されました。2階は比較的保存状態がよく、小屋裏も現状で雨漏りなどは見られませんでした。外壁はモルタル洗い出し仕上げの大壁ですが、一部割れや浮きがみられ、今後新たに活用する場合には、全体に点検と補修が必要です。

②台所

特に大きな傷みはないとみられます。

③居宅

一部の部屋で床が腐朽し、不陸も多少みられます。屋根瓦の欠けが一部みられますが、小屋裏から雨漏りはみられませんでした。天井の布張りが落ちるなど、今後活用する場合は床の一部補修や天井の補修などが必要です。

その他

建物以外となりますが、医院1階では歯科医院時の道具や資料などが、2階座敷は多くの調度品が見られます。活用の際にはこれらをどうするかも検討が必要です。

調査 ふくいヘリテージ協議会

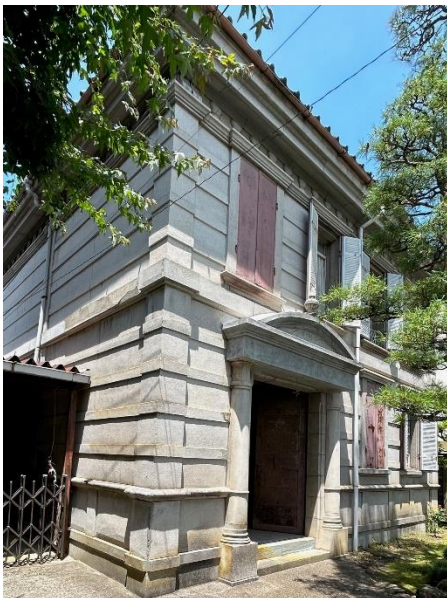
野口、堀江、川栄、尾野、今出（以上会員）

高嶋猛、福井宇洋、国京克巳（以上顧問）

■写真



正面外観



医院外観正面



医院外観側面(北側)



医院外觀背面



医院外觀背面



医院玄関



医院1階 待合室



医院1階 技工室



医院1階 診療室



医院 2 階 前室



医院 2 階 前室床の間



医院 2 階 次の間



医院 2 階 次の間



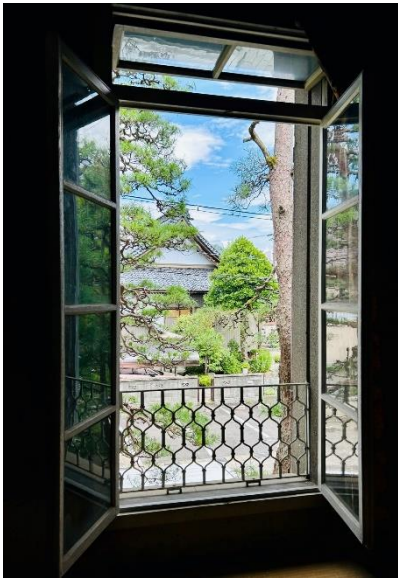
医院 2 階 座敷



医院 2 階 座敷床の間



医院 2階 松尽くしの意匠(欄間、換気口、襖引手金具)



医院2階 洋風窓



医院 小屋裏



台所外観



台所内部



居宅 外観



居宅 外観



居宅 1階 茶の間



居宅 1階 和室 6帖